

---

# 晩夏の三日月を見上げ、杯を交わす二人

進士夜紳士

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

晩夏の三日月を見上げ、杯を交わす二人

### 【Nコード】

N0360W

### 【作者名】

進士夜紳士

### 【あらすじ】

歳月流るるが如し今宵も、彼等は集う。

『二百文字小説企画Es』の企画参加作品です。

星影の下、どちらともなく落ち合う二人。

「もう秋か。時節の巡りは早い、肌寒くもなる訳だ」

「俺は変わらず暑いがな。過ぎた時は嘘を付かん、さっそく始めよう」

応と返し、誇らしく手持ちの杯を交わした。

「どうだ？ 今夜は私の勝ちかな」

「いいや、俺のも悪くないはずだが」

三日月へと掲げた杯は、双方共に弧を描く黄金色。

「……どうやら、引き分けか」

「まだまだ遠いな、お互いに」

彼等の頬が緩む。

未だ見ぬ美を月に馳せ、競う。

(後書き)

初めましての方は初めまして、作者の進士夜紳士です。

本作は初の200文字小説となります。

テーマとしては、『手の届かぬモノに焦がれ、刺激し合い切磋琢磨する工匠達』です。

私の考える『創作者の在り方』についても、密かに暗示したつもりです。

最後まで目を通して頂き、ありがとうございました。

ここからは追記です

頂いた御指摘を基に、最後の二行を再考してみました。

企画が終了次第、改訂する予定です。

ああ、頬が緩む。

彼等の頬が緩む。

また三日月に、会いましょう。

未だ見ぬ美を月に馳せ、競う。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0360w/>

---

晩夏の三日月を見上げ、杯を交わす二人

2011年10月7日19時38分発行